

## 計画の施策体系

### 基本理念

子育てをしたいまち おおたけ  
～みんなでつくろう『おおたけ子育て好循環』～

### 基本的な視点

1. すべての子どもが健やかに成長できるまち
2. すべての親が子育ての喜びを実感できるまち
3. 地域と市民が共に子育てを喜び合えるまち

## 基本理念を実現するための施策

- 1 **子育てが楽しいまちづくり**
  - (1) 総合的な子育て支援体制の整備
  - (2) 家庭教育の推進
  - (3) 多世代の交流の場づくり
- 2 **母子の健康づくり**
  - (1) 安心して妊娠・出産できる環境の整備
  - (2) 母子保健の充実
  - (3) 食育の推進
  - (4) 小児医療体制の充実
- 3 **仕事と家庭の両立支援**
  - (1) 保育体制・保育サービスの充実
  - (2) 児童の安全・安心な居場所づくり
- 4 **さまざまな環境にある子どもや子育て世帯への支援**
  - (1) 児童虐待・DV 防止対策・要保護児童支援の推進
  - (2) 障害のある児童などへの支援
  - (3) 経済的負担の軽減
- 5 **健やかな次世代の育成**
  - (1) 幼児教育・保育の推進、小・中学校との連携促進
  - (2) 小・中学校教育の推進
  - (3) 青少年の健全育成
- 6 **子育てにやさしい生活環境の整備**
  - (1) 世代にあった遊び場の確保
  - (2) 子育てバリアフリー化
  - (3) 交通安全・防犯活動の推進



親子で泥んこになって田植え（松ヶ原こども館 令和元年5月撮影）

子どもや子育てが家庭を取り巻く環境は年々変化しています。事件や事故からどのように子どもを守っていくか、子育てのしづらさ、負担を感じている親をどのように支援していくかなど、多くの課題を抱える中で、「子育てをしたいまち」を実現するためには、行政の取り組みはもちろん、周囲の人たちの支えがとても重要です。

ぜひ市民の皆さんのご協力をよろしく願います。



市民の皆さんの力が不可欠です！

この基本理念を具体的に形にしていくために、今後さまざまな子ども・子育て支援施策に取り組んでいきます。

また、計画の基本理念を「子育てをしたいまちおおたけ」みんなでつくろう「おおたけ子育て好循環（サイクル）」としました。これは、市民の皆さんや関係者、行政などがそれぞれ役割を果たしながら、協力して子どもと子育て家庭を支えていくことで、親が子育ての根源的な喜びを感じながら子どもを育てることができるような社会を作ろうというものです。

その中で育った子どもたちが将来、自らの知識と経験を次の世代につないでいくことで、子育ての喜びや希望が循環していき、誰もが「子育てが楽しい」「子どもを育てたい」と思えるまちにしたい、という思いが込められています。

# 子育てをしたいまち・おおたけをめざして おおたけ 子育て好循環

「第二期大竹市子ども・子育て支援事業計画」ができましたー  
問い合わせ 福祉課 ☎59-2148

晴海臨海公園の大型遊具  
ロボボファクトリーには、  
子どもたちの楽しそうな  
声が響いています。【令和  
2年1月撮影】



### 子育ての喜びを実感できる環境づくりに取り組みます！

この計画では、まず保育所や認定こども園など、教育・保育を提供する施設の利用の見込みと、提供する量（利用定員）の目標値や、法律で実施が求められているさまざまな子育て支援事業の利用の見込みと、提供する量の目標値を定めました。

市は、平成27年度から令和元年度までの5年間で期間とする「大竹市子ども・子育て支援事業計画」を作り、子育てをめぐるさまざまな課題の解消や、多様化する子育て支援ニーズへの対応などに取り組んできました。今回作成した計画は、前の計画の理念を引き継ぎながら、市の子育て支援を一步先に進めようという姿勢のもと、教育・保育や子育て支援などの今後5年間の取り組み

の方向性を定めた計画です！

計画の作成にあたっては、小学生までのお子さんのいるご家庭へのニーズ調査を行った上で、子どもの保護者や学識経験者、子育て支援に関する事業などに従事している方などで構成される「大竹市子ども・子育て会議」で審議を行いました。また、広く市民の皆さんからのご意見の募集も行いました。

大 学では子どもの放課後活動、特に発達障がいのある子どもの地域生活支援を研究テーマに、子どもの最善の利益を保障する支援体制のあり方を検討しています。また、保育所などを利用する子どものほか、児童養護施設や乳児院といった社会的養護下の子どもや障がいのある子どもの支援と同時に、子どもを取り巻く家族や地域社会に目を向けることができる「福祉ベースの保育士」の養成にも従事しています。

保護者の方が子どもだった当時と比べて、今はインターネットが普及し、保護者の方が簡単に育児情報を入手しやすくなりました。また、SNSを通して、子育ての合間に保護者同士がつながりを持てるようになったと感じています。このことは、知識不足による不適切な養育や「子育て」の軽減につながると考えられます。ただ、子どもは一人一人異なりますので、インターネットの情報はあくまで参考にとどめ、目の前の子どもの応答を受けて育児の仕方を臨機応変に変えていくことが求められます。

また、子育ては五感をフル活用して親子が交流し、成長し合う営みです。直接顔を合わせながら、我が子に合った助言を受ける機会や、親子が集い交流する場の充実も、子育て・子育てに必要なことだと思います。

大竹市は、親子が集う場や家庭訪問など、親子同士や親子と支援者が直接顔を合わせる機会が公私問わず用意されています。地域差や活動場所までのアクセスなどに課題はありますが、子育てを応援する取り組みが広く展開されていると感じています。

子ども・子育て会議では、委員の方と事務局との距離が近い印象で、皆さん積極的に発言されてとても意見を出しやすいく雰囲気がありました。計画自体も丁寧で分かりやすく工夫され、子どもとその家族を尊重した語句が用いられるなど、多様な立場の方が理解しやすいものになっていると思います。

計画には、ネウボラ（妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行う仕組み）をはじめ新たな取り組みの導入が盛り込まれてい

ます。子ども・子育て会議は計画の進捗よく状況を点検する役割も担っています。今後も多様な立場の方が意見を出しやすい雰囲気の中で計画を見守り、子育て家庭のニーズに沿った子育て支援に貢献したいと思っています。

子育てをしたいまち・おおたけをめざして

## おおたけ 子育て好循環

計画作成に携わられた大竹市子ども・子育て会議の委員の皆さんにお話を伺いました。

Interview

みんなの笑顔があふれる子育てのまちに。世代を超えて協力し合うことが大事だと思います。

築地 富美さん

（民生委員・児童委員、主任児童委員／玖波）

大 竹市には26年前に転入し、仕事をしながら3人の子どもを育て、主任児童委員として活動を始めて7年目になります。主な活動は、市の児童福祉に関する機関と連携しながら、担当区域である玖波・栗谷地区で児童の見守りや赤ちゃんな訪問、子育てサロンなどを行っています。

子ども・子育て会議には、第一期計画策定のための会議からずっと関わらせていただいています。計画を議論する中で、子育て中の委員の方の貴重なご意見を聴けることは大変勉強になりました。私たちが子どものころは子どもが多く、学校行事や地

域の子ども会行事も盛んでしたが、今は残念ながら少子化で地域の中で交流する機会が減ってきています。また、大竹市は市外・県外から転入してくる子育て家庭が多く、支援を必要とする家庭も増えており、子育て支援の充実が必要不可欠であると強く感じています。

今後開設が予定されているファミリリー・サポーターセンターなど、子育て家庭のための事業が展開されることを期待するとともに、もっといろんな世代の地域の方々の知恵や協力で、大竹市が子育てしやすいまち、笑顔があふれるまちになっていくことを願っています。

子育てをとおして親も成長します。多様な立場に寄り添った子育て支援が求められます。

西村 いづみさん

（副会長・広島国際大学准教授）

にこっ



大竹市子ども・子育て支援事業計画は、市役所2階情報公開コーナーで見ることができます。また、市ホームページにも掲載しています。

困ったときに相談しやすい体制づくりを。積極的な子育て支援を期待します。

林 未央さん

（保護者代表／北栄）

大 竹で生まれ育ち、現在も大竹市内で働いています。4人の子どもの恵まれ、日々を忙しく過ごしています。長女が小学生の時にPTAの女性副会長を務めさせていただいたのを機に、子ども・子育て会議に携わることになりました。大変貴重な経験をさせていただいていることに感謝しています。

年齢によってさまざまです。その問題の抱え方で子育てがしやすい、しづらいは変わってくると思いますので、それぞれの家庭の状況にきめ細やかに対応できるように体制が必要だと思います。

また、大竹市は先手を打って施策や事業に取り組むということが少ないと感じています。しがらみや兼ね合いなどあっても即断、即決というわけにはいかなければなりません。遅い場合もありますので、今後はもっと積極的な姿勢で、子育て世帯に寄り添った取り組みを増やしてほしいと願っています。